

**FULL
TIME
TRAINING
in TOKYO
2015**

Full-Time Training

全時間訓練

全時間訓練は
神学校や聖書学校ではありません。
それは青年たちが共に住んで
からだの生活をして霊的な命を訓練し、
ここで訓練されて成就され、
聖書を学び、祈りを学び、
良い性格を建てることです。
主を追い求める青年たちを成就して
キリストの中で成長させ、
キリストのからだにおける正常な、
生きた、機能する肢体となって、
キリストの有機的なからだを建造し、
キリストのからだの実際を生かし出します。

ウォッチマン・ニー

10th

そして、彼らがイスラエルの神を見ると、
その足の下にはサファイアの
敷石細工のようなものがあり、
透き通った天のようであった。
(出エジプト24:10)



11th



また神を愛する者、
すなわち、彼の目的にしたがって
召されている者たちには、
すべてが共に働いて益となることを、
わたしたちは知っています。
(ローマ8:28)

Life



命

Truth



真理

Service



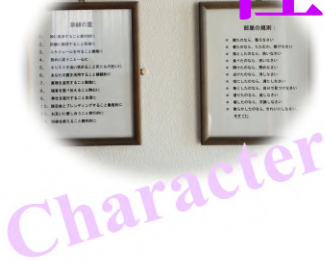
奉仕

『心を尽くし、魂を尽くし、
思いを尽くして、
主であるあなたの神を愛しなさい』。

(マタイ22:37b)

性格

福音



Character



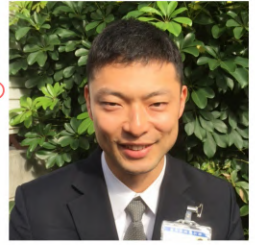
Gospel

真理

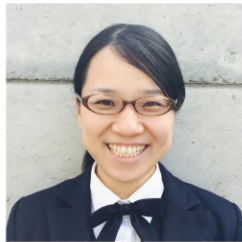
Truth

畠本翼～10th～

Tsubasa Hatamoto



私にとっての真理とは、虚しさ、望みの無いただ中に耀く、信じるに足りる、『希望の言葉』です。それは、環境の中で、打ち勝つ確信と希望を、その言葉と共に恵みと愛の中で、『贈られ』ます。今日、神の言葉は、兄弟姉妹を通して語られます。これを『神のエコノミー』といいます。クリスチャン生活の中で、キリストの豊富を、恵みとして、兄弟姉妹に与えます。1コリント15章45節の『命を与える霊』とは、ギリシャ語で『死んだものを生かす、生きたものにする』とも訳すことができます。兄弟姉妹の経験を通して得られた、神の言、時に応じて語られる命の言葉が私を暗闇から、驚くべき光の中へと移してくださいました(1ペテロ2:9)。神の言は成長します。わたしたちの内側で生きており、人に神を供給します。これは教理や、知識ではなく、命、実際としての、神ご自身の分与です。



大黒美由紀～11th～

Miyuki Oguro

「またあなたがたは真理を知る。そして真理はあなたがたを自由にする」。(ヨハネ8:32)

真理とは、神聖な事柄の実際である主ご自身です。私達の中に分与された主ご自身が、罪の束縛から私達を解放し、私達を通して表現されます。私は真理に対して教理と同じようなイメージがあり、難しい印象を持っていました。しかし訓練を通して、それは実際であり、私達が主観的に経験することを通して表現される主ご自身だということに観念が新しくされました。

「神の家とは生ける神の召会であって、真理の柱また基礎です」。(1テモテ3:15後半)

堅固な真理で構成されて、主を表現することができますように。



森田響～11th～ Hibiki Morita

私たちクリスチャンは内側に別の命を持っています。IIコリント6章1節、「そしてわたしたちは、神と共に働きながら・・・」。エド兄弟はここに

あるフットノートを用いて訓練生に交わって下さいました。私たちはある環境に来るとき悩まされ、それに適合する事が出来ない事をみる事があります。召会生活の中には色々な環境、状況があります。私たちの命は召会生活にも適合する事が出来ません。しかし私たちの内側にある別の命は全ての状況に適合する事ができます。使徒たちはこの命によって新約の務めの働きを遂行しました。私はこの交わりにとっても触れられ、また励まされました。私たちは困難な環境、状況に直面するとき私はこれに適應する事ができないと言ってはなりません。霊に戻り私たちの内にある全てに適合する命すなわちキリスト御自身がおられることを認識する必要があります。

後藤純香～11th～ Sumika Goto



「エホバよ、深い所から、わたしはあなたを呼び求めます。主よ、わたしの声を聞いてください。あなたの耳を、わたしの懇願の聲に傾けてください」。

(詩篇130:1-2)

わたしたちは自分の状況や問題をすべて主に語ることができます。主はわたしたちの内におられ、わたしたちの声を聞くことを願っておられます。訓練の中で、自分の弱さや失敗のゆえに落ち込むことや、自分にはどうすることもできない状況に悩むことがあります。そのようなときに何でも主に告げることができ、主がわたしの声を聞いてくださることを感謝します。「主よ、わたしにはできません。どうしてもできません。」このように主に祈るとき、主は内側からわたしを慰め、彼の復活の力でわたしをカづけてくださいます。そして主はわたしの命として、わたしにはできないことを甘さと喜びの中で行なうことができるようにして下さいます。絶えず主との親密な交わりの中にとどまり、「わたし」ではなくキリストを生きることができますように。

命
Life

奉仕

Service

田中義信～11th～

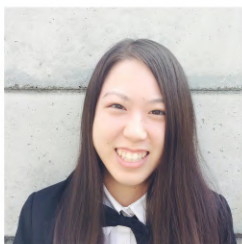
Yoshinobu Tanaka



「兄弟たちよ、こういうわけで、わたしは神の慈しみを通して、あなたがたに勧めます。あなたがたの体を、神に喜ばれる、聖なる、生きた犠牲としてささげなさい。それが、あなたがたの理にかなった奉仕です」。(ローマ12:1)

「というのは、よく奉仕する者は自分自身に良い足場を得、そしてキリスト・イエスにある信仰において、大いに大胆になるからです」。(1テモテ3:13)

私は、奉仕を通してたくさんのことを学んでいます。奉仕は単なる作業ではなく、からだの組み合わせを学ぶ良い機会でもあります。霊を活用して奉仕して、どのようにして一つの物事を早く、効率良く丁寧にするかを学んでいます。私は、一つの物事を早くするのがとても苦手で、非効率で物事が進まないことが多くありますが、効率良くするために学んでいます。



野崎菜々子～10th～

Nanako Nozaki

訓練に入る前は、好きな奉仕や得意な奉仕だけをやっていました。訓練に入ってから、得意、不得意にかかわらず奉仕をしなければいけません。最初はノルマのように言われたことを淡淡とこなしていました。奉仕をする中で、だんだん自分の力や、努力で乗り越えることのできない奉仕が出てきました。主の中で奉仕することを学びました。その中で「自分の力ではできません。主が行なってください」と祈ることができました。最初は悔しい気持ちもあったけれど、主にあずかる機会となりました。不得意な奉仕も主の中で祈り行えば、エンジョイへと変わりました。

「兄弟たちよ、こういうわけで、わたしは神の慈しみを通して、あなたがたに勧めます。あなたがたの体を、神に喜ばれる、聖なる、生きた犠牲としてささげなさい。それが、あなたがたの理にかなった奉仕です」。

(ローマ12:1)



櫻井実~11th~ Makoto Sakurai

キリストを得なければ
ただ罪と悲しみだけ!!
キリストを得なければ
何の解決もない
全世界を得たとしても
死のときは必ず来る
キリストを得なければ
暗やみがあるのみ。(詩歌700番,3節)

主イエス・キリストは私たちを罪と暗やみから救い出してくれたお方です!!キリストを得なければ、ただ罪と悲しみだけであり何の解決もありません。私たちを暗やみから光へともたしてくれられたお方を、私たちは至る所で会う人すべてに、イエスを福音として宣べ伝え、魂を奪い取る必要があります!!あわれな人らに生活を通してキリストを与える必要があります。私たちは福音を恥としません!!大胆に福音を宣べ伝えます!!福音の労苦する祭司としてキリストを生かし出し、生活の中でキリストを与え表現できますように!!

世界全地のあらゆる舌がイエスは主であると宣言する日がやって来ますように!!私たちは日本全地に、世界全地に福音を宣べ伝え、主をもたらし、神のエコノミーを究極的に完成させます!!

平田美早~11th~ Misaki Hirata

「というのは、神がわたしたちに賜わったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです」。(IIテモテ1:7)

私は訓練に入るまで、福音を数えるほどしかした事ありませんでした。なので訓練に入っすぐの集中福音行動は、精神的にも体力的にもきつかったです。

しかし、この福音行動で多くの経験をしました。福音は1人ですると弱いですが、組み合わせされると、とても強いことを知りました。その時のゴスペルパートナーは、私が言葉に詰まっていると、フォローをしてくれて、とても心強かったです。伝えるのが恐いと思ってしまった時、一緒に祈り、励まし、アドバイスをしてくれました。そして、多くの主の経験を語ってくれました。私はその時、とても福音は甘いと感じました。更に福音を伝えて多くの人がこの甘いキリストを得て欲しいと思いました。



福音

Gospel

性格 Character

平田千秋～11th～ Chiaki Hirata



「わたしたちの心はすすがれて邪悪な良心から離れ、体は清い水で洗われ、真実な心で、信仰の全き確信をもって、至聖所に進み出ようではありませんか」。

(ヘブル10:22)

訓練の前、性格について細かく考えることはありませんでした。訓練に入り、自分自身の性格が真実でなければ、供給するキリストが曖昧になることを認識しました。

主は広い心で赦されます。同時に、ご自身が「喜ばれる」ことであるかどうか、光としてわたしたちの内側を照らしません。性格の訓練を通して数多い照らし、暴露がありました。照らしを放置すると、主の新しさの中で行動することができません。小さなことだからこそ、一つ一つ対処していく必要があることを痛感しました。

主はすべての必要を満たします。計り知れない豊富を、わたしたちの魂の機能によって妨げず、純粋で新鮮なキリストを享受することができますように。

真理の追求と命における学びの程度は、性格の訓練の程度にかかっています。



余力聖美～11th～ Kiyomi Yoriki

主は私たちの唯一の牧者であることを感謝します。私にとって何をするにも自信が無いという性格は、長年悩まされていた事でした。訓練生活において

も時々周りの訓練生と比べては、自分には真理も無い、奉仕で機能してない、牧養する分がないのではないかと落ち込むことがあります。

しかし、エペソ4章7節ではこう言います。「しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物の度量に従って恵みが与えられました」。たとえ私に誇れる何かがあったとしても、神のために用いなければ、何も役に立たず虚しいものです。私たちの命は、キリストの体の中で機能して、神に仕えるためにあります。そして私たちの持っている賜物は、すべてはからだの建造のためであることを感謝します。日々の命の造り変えに預かり、また自分の持っている分を主のために大いに用いる事により、主の目に尊い器となりたいと願います。

Good morning Lord Jesus!

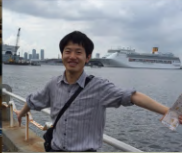


訓練生の一日

- 6:00 起床
- 6:25 団体の祈り読み
- 6:35 個人の祈り
- 7:00 朝食
- 8:00 クラス I
- 9:45 クラス II
- 11:30 キャンプスワーク
- 16:25 務めの集会・PSRP・
チームの交代
- 17:45 夕食
- 19:00 自習・祈りの集会・小組
- 22:00 部屋ごとの祈り
- 22:30 就寝

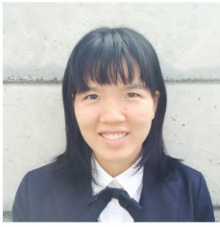


イエスはわが命 なが愛のゆえ 一日に千回 御名を叫ばん!





胡春燕～11th～ Chunyan Hu



2012年、大学院生一年生の時、つくばに在る召会で主を信じ、バプテスマされました。翌年、シスターズハウスに移住し

多忙な学校生活を送りながら、3年間神を追い求めて、甘い召会生活を送りました。

大学院二年生の時、ずっと私を顧みていた姉妹は訓練に行くことを勧めました。当時、神に魅了されて、もっと時間をかけて神を知り、追い求める願いがりましたが、それとは別に、内側では自分の将来の夢を持っていました。

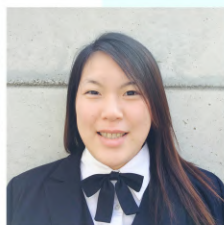
高校生の時から文章を書くことを通して、弱い人を助け社会の不正を暴露するジャーナリストになる願いを持つようになりました。大学院を卒業した後、新聞社か雑誌社で働くのは私の人生の計画でした。そして、卒業する前に、半年ほど就職活動をしました。就職活動の中で、社会の人々はお金、名誉、地位に振り回されていることをしみじみ感じました。ある出版社でインターンシップしていた時によくわかったのは、自分がジャーナリストになっても、好きなように文章を書けるのではなく、ただ社会の人々と同じようにマモンに仕えるだけだということです。そもそも、文章を書くことを通して、本当に人間を助けることができるかどうか疑いました。人間に知識を与え、道徳を教えることはある程度、良い人間になるかもしれませんが、聖書に書かれているように、それはただ善悪知識の木の範囲の改善です。未信者から、信者になって、3年間召会生活の中で、神が人の中で働いたみわざを見た後、根本的に人を変えられるのは神の命、すなわちキリストであるということがわかりました。

主のあわれみでこのビジョンを見た後、この尊いキリストをさらに多くの人にもたらず負担を持つようになりました。そして祈りの中で、自分自身が訓練されて、キリストで構成される必要があると感じました。ピリピ3章8節はいいです、「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、わたしはすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくたと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり」。この御言葉に触れ、自分の夢を捨てて、神の夢が私の夢となり、献身を更新して、全時間訓練に行くことにしました。

全時間訓練への主の導き

今村恵～11th～

Megumi Imamura



私の学生生活、社会人生活は、人や環境に恵まれ、悩んだり落ち込んだり、ストレスを感じる事があまりなく毎日楽しく過ごしてきました。なので私の生活には主が必要なかったのです。

私にとって主はとても怖い存在でした。何か環境を与え、自分を困らせる方という風に思っていました。

そんな私に大きな転機がありました。

2年前、私は会社で事故に遭い、右手の中指と人差し指を切断してしまいました。病院に運ばれた時、医師からは「残念ながら切断した指はつきません。こちらで処分しますね」と言われました。その時の私は「まっ、くよくよしてもしょうがない。今の医療はすごく進んでるし、すぐ治るから全然大丈夫～」と軽い気持ちでいました。もちろん怪我はすぐには治らず、今まで、楽しく生きてきた生活とは180度違う生活に変わってしまいました。可哀想な目で見られたり、心ないことを言われたり、今まで味わったことのない辛く悲しい思いをしました。その時、私は「これからは絶対に泣かない。自分1人で強く生きていこう」と決意しました。なので、主に向くことも祈ることもしませんでした。

ある日、集会に行った時、兄弟姉妹達が私の所に来て、「よく来たね。主もきっと喜んでるよ。」と涙を流して私をおかえて下さいました。そして、私が召会生活していない間も、地元の兄弟姉妹はずっと私のことを祈って下さっていたことを知り、本当に嬉しかったです。でも、私はどうしても自分で主に祈ることができませんでした。兄弟姉妹は自分で祈ることのできない私のとなりで、私のために必死に祈って下さいました。今年2月、私は指を移植する手術をしました。手術台上上がった時、強く生きていこうと決意した私に、今までにない恐怖と不安が襲いかかりました。そこで初めて主に祈りました。「主よ私を助けて下さい。私はすごく怖く、とても不安です。どんな時も私と共にいて下さい。すべてのことをあなたに信頼します」その時、心の中に今までに感じたことのない安心感があり涙がこぼれました。

この経験を通して、召会生活に戻ることができ、また、いつでもどんな時も祈り、なんでも言える主が私の中にいることに、とても感謝しました。地元の兄弟姉妹が私のために祈り語って下さる姿を見て、私も主のこともっと知って、語れるような姉妹になりたいと思い訓練に行くことを決断しました。主の恵とあわれみにより、また、兄弟姉妹の祈りと支えにより訓練へと召されたことを主に感謝します。

「なぜなら、キリストの苦難がわたしたちにあふれているように、わたしたちの受ける慰めもまた、キリストを通してあふれているからです」。

(Ⅱコリント1:5)



岡田絵里香～11th～

Erika Okada

私は未信者の父とクリスチャンの母の間に次女として生まれました。石川県(地元)には健常者の集會がありません。しかし聴障の祖父母がクリスチャンであったので私は小学5年生の時にバプテスマされました。月に一度、隣の県から姉妹が来てくださり子供集會を開いてくださいました。子供集會といっても当時は姉と私と妹の三姉妹しかいませんでした。私は中学・高校に進学し、学校が忙しくなって、月1の子供集會へも行かなくなってしまうました。しかし5月と9月の特別集會には毎年必ず祖父母が連れていってくれました。地元の姉妹の友達がいなかった私はいつも妹と一緒にいました。私は祖母に幼いころから「訓練へ行きなさい」と言われ続けていたので、高校生になったころ自然と意識するようになっていました。しかし、集會も年2回しかいっておらず、友達もいなかった私が訓練へ行くとは考えられませんでした。そして大学生になったころ、祖母からの訓練の話がとて多くなりました。当時の私はこの世を謳歌しており楽しいはずでした。しかし何をしてもいつも何か虚しさに包まれ満たされない感覚がありました。それは主を入れる器官である霊が満たされていないからでした。満たされない部分を必死に弱さの中でもがいて、この世で満たそうとしていました。そんなとき関西の同世代の兄弟姉妹とのブレンディングに参加させていただきました。全く知らない子たちでその時初めて会った子たちなのに、とても楽しく今までに感じたことのない真の平安がありました。私は「これだ!!」と思いました。私が何をしても満たされなかった部分を唯一うめてくれたのは主だけでした。幼い頃から知っていた主がこの虚しさを満たしてくれるお方だと知った時、とても衝撃を受けました。私は幼いころから言われ続けていたので、いつもどこかで大学を卒業後訓練へ行くものだと思っていました。はじめは祖母が喜んでくれるからという理由で訓練へ行きたいと思っていました。しかし、この頃には自らの意志で訓練へ行きたいと思うようになっていました。祖母の神が私の神となりました。義でありながらもとても温かい無償の愛を感謝します。私が訓練へと召されたのは幼いころから顧みてくれた兄弟姉妹、同世代の姉妹たちの励まし、祖父母、主のあわれみのゆえです。このように周りに兄弟姉妹がいつもいてくれること本当に感謝します。召會は家です。

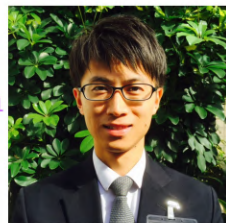
「彼はすべてを造り、時になんて美しくされた。また、彼は彼らの心に永遠を置かれた」。(伝道の書3:11前半)

「また、わたしは、あなたの内にある偽りのない信仰を思い起こしています。この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケに宿ったものですが、あなたにも宿っていると、わたしは確信しています」。(IIテモテ1:5)



海外ブレンディング

西村達也～10th～ Tatsuya Nishimura



International
Full-Time Training
Blending Conference 2015.06.13-14

2015年6月13～14日、史上初の「国際全時間訓練ブレンディング集会（略称IFBC）」がインドネシアのジャカルタで持たれ、2万人以上が参加しました（現地9806名、海外11901名、計21507名）。世界各地から全時間訓練の奉仕者と卒業生と在籍学生、そしてブレンディングに願いがある聖徒たちが集まりました。東京の訓練生は10日～15日と、前後の準備集会及びブレンディングにも参加することができ、祝福に預かりました。IFBCは主に全時間訓練の益を証しする集会でした。

・全時間訓練による前進

IFBCの最初の集会は、強烈なメッセージをもって開始しました。インドネシアにおける主の回復の働きが波乱万丈な開始と壮絶な発展と現在の豊富な祝福、そしてインドネシア全土召会化という凄まじい展望についてのプレゼンテーションでした。さて、壮絶なストーリーは割愛して、数字でお話したいと思います。

インドネシアの回復は1937年に始まりましたが、58年を経た1995年までは、あまり拡張開展がなく、60の召会に5000名の聖徒だけでした。しかし、1995年に始まったインドネシア全時間訓練（FTTI）が状況を一変させました。2015年までの20年間を通して、801名の卒業生を生み出しました。彼らはバトンを受け取り、各地で召会の証しを担い、地方召会の霊的質を高め、聖徒の人数を増やしました。現在80%以上の長老、責任者及び執事がFTTI卒業生です。彼らが主体となって機能し、126の地方召会（66の都市）と14000人の聖徒に発展しました。兄弟たちはこう結論づけました：

「インドネシアでの主の回復は、全時間訓練卒業生の増加と共に前進して来ました」。

・全時間訓練による展望

インドネシアの今後の目標は500の金の燭台でインドネシア全土を埋め尽くすことです。もちろん全時間訓練を通してです。2016～2026年の10年の間に訓練参加する意思を表明した学生は757名います。将来10年の参加予定者が過去20年

2015

FTTMalabon

FTTI Blending 2015.06.10-15

FTTSeoul

FTTTokyo



IBC 2015

Oo Tuhan Yesus!
Bahasa

Oo Lord Jesus!
English

Ói Chúa Glésu
Gaeilge

O Here Jesus
Afrikaans

哦，主耶穌
Chinese

ああ主イエス
Japanese

O Господь Иисус
Russian

Ἐἵς ἑσθ
Thai

အာ ဘုရား
Myanmar

Oh Herr Jesus
German

Oh Signore Gesù
Italian

Oh Señor Jesús
Spanish

INTERNATIONAL FTT
BLENDING CONFERENCE
November 10-14, 2015 | ICC

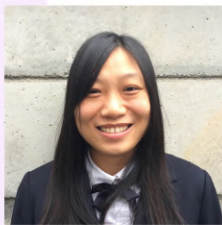
Malabon
20
Anniversary



ユダヤ人とギリシャ人の区別はありません。同じ主が、すべての者の主であって、彼を呼び求めるすべての者に、彼は豊かです。(ローマ10:12)







山下咲子～10th～

Sakiko Yamashita

アナハイムでのサマートレーニングの二週間、エンジョイできたことを感謝します。

空港に到着して、FTTAの兄弟姉妹がウクレレを弾きながら詩歌を歌い、私達を歓迎して下さいました。アメリカには色々な人種、言語、文化がありますが、FTTAに着いて兄弟姉妹は同じ主をエンジョイして、同じ言葉を語っていることに感動し、とても供給を受けました。コロサイ3章10-11節は言います。「新しい人を着たのです。その新しい人は、それを創造された方のかたちにしたがって全き知識へと至るように、新しくされつつあるのです。その新しい人には、ギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開人、スクテヤ人、奴隷、自由人はあり得ません。キリストがすべてであり、すべての中におられるのです。」キリストの中で、この素晴らしい一を証しできることを賛美します。

私は、台湾や中国、スペイン圏の姉妹達のテーブルに按配されたのですが、姉妹達は、訓練に召された証しや日々エンジョイしていること、家族のことなどを話してくれました。みんな色々な環境があったけれど、主に感動されて召しに応じ、時間と金銭と自分を主に捧げていました。その姉妹達の中には、家族がまだ救われていない人も大勢いて、祈り続けていました。また、ある姉妹は、朝食の時間に聖書通読をしていて、その日はマルコ7章を読んでいました。25節は言います、「汚れた霊にとりつかれた小さい娘を持つ女が、イエスのことを聞くと、すぐにやって来て、彼の足もとにひれ伏した。」32節のフットノートでは、霊的に耳が聞こえず言葉の不自由な人、すなわち神の声を聞くことも、神を賛美することも、神のために語ることもできない人を象徴します。口が利けないのは、耳が聞こえないからです。奴隷・救い主のいやす救いは、まず彼の耳を扱い、次に舌に触れて、耳が聞こえず口が利けない状態を完全にいやすことができます。多くの時に、私達は自分の要望だけを主に沢山言いますが、主の言葉を聞く耳を持っていません。主が私達に聞く耳を与えて下さり、彼の言葉を聞くことができますようにと姉妹が言われました。私はちょうどその状況の中にいたので、主が肢体を通して私に語って下さったことを感謝します。

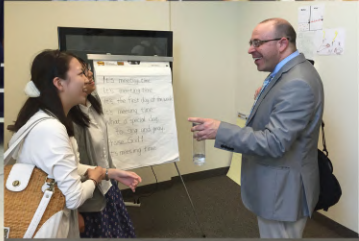
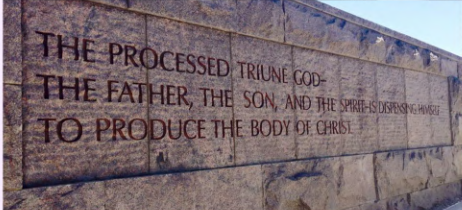
また、夜の祈りは、みんなの証しやその日に享受したこと、まだ救われていない家族のことなどを互いに聞いて共

に祈り合った光景がとても麗しかったです。使徒1章14節の後半で、「一つ思いでひたすら祈り続けていた。」とありますが、私達の祈りは、神のエコノミーを地上で遂行するために、天におられる主と協力することです。キリストのからだが建造され、花嫁を整えることができますように。

それから、朝の時間や休み時間に、主との個人の時間を持っている兄弟姉妹を見かけました。彼らは、主の名を呼んだり、詩歌を歌ったり、霊的な書物を読んだりしていました。奉仕の時に主の名を呼びながら、一緒に詩歌を歌っていた人もいました。一人が歌い出すと、自然に周りの人も歌い始めます。次から次に、色々な詩歌を享受していました。FTTTkも、日本語の詩歌をみんなにサプライズしました。みんな常に主を享受して詩歌を歌い、主を賛美している姿は、とても印象に残りました。日本には若者が少ないですが、海外に行って純粋に主を追い求めてる兄弟姉妹を見て、とても励まされました。私達がみなパウロのように、若い時の欲から逃れて、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和を追い求めることができますように。そして、ただ一つの事、すなわちキリストを得るために、目標に向かって前進することができますように。



FTTA Blending 2015.06.20-07.06





R THE VISION OF GOD IN A TRANSPARENT AND CLEAR
FACE WITH MAN ON EARTH. BUILT ACCORDING TO THE P



Purpose of the Training 訓練の目的

訓練生をキリストの中で建て上げて、彼らの命が成長し、
円熟へと至るようにする。

エペソ4:15. コロサイ1:28

訓練生を装備して、聖書にしたがい、聖霊の啓示によって、
神聖な真理を認識させる。

Ⅱテモテ3:16-17. Ⅰテモテ2:4. Ⅱペテロ3:18

訓練生を育てて、彼らの霊的能力を養成し、
福音を宣べ伝え、若い信者たちを養い、聖徒たちを成就し、
神の言葉を預言して諸地方召会を建造し、
キリストのからだの建造において究極的に完成する。

マタイ28:19. Ⅰテサロニケ2:7. エペソ4:12. Ⅰコリント14:1

Goal of the Training 訓練の目標

神聖な啓示の最高峰に到達する——

神が人となられたのは、人が神格においてではなく、

命と性質において神となるためである。

今日のエルサレム（召会）における今日のシオン（勝利者）の
最高峰に到達する。

啓示録14:1

キリストの復活の力の中で、
キリストの死に同形化される生活をすることによって、
キリストのからだの実際に到達する。

ピリピ3:10

Praise the Lord!



Tkだより2015

Full-Time Training in Tokyo

〒151-0071

東京都渋谷区本町1丁目30-7 ジャパンゴスペルワーク

TEL: 03-3374-8576